

実地指導者向け研修&グループワークで “シユアプラグ使用上の注意”を 現場に促す伝達法を検討



医療事故を防ぐために、事故につながりかねない事象を模擬的に体験して回避に役立てる方法がある。近畿大学医学部附属病院では、体験型の医療安全研修を、臨床現場で新人を指導する実施指導者に行い、さらにワークショップを実施することで現場への浸透に努めている。

photo: 鞆留 清隆

看護技術などを後輩に指導するうえで、どうしたら意図がより伝わるのか、その伝達法に悩む読者も少なくないだろう。そこで参考にしてほしいのが、“体験型”の研修だ。

近畿大学医学部附属病院の看護技術推進委員会では、「シユアプラグの使用上の注意」と題した研修を実施した。参加者全員が用意された物品を用いて事故につながりかねない事象を模擬的に体験するというもので、「T-PAS(予測・予防型の安全

対策)※とよばれるテルモ株式会社提供の研修プログラムである。

「T-PAS」は、シリンジや輸液セットなどの汎用医療機器の添付文書に記載された注意事項を体験しながら理解するもので、テルモ株式会社が収集した安全性情報のなかから、とくに臨床で注意が必要なものを取り上げている。

同院では、昨年に引き続きT-PAS研修を実施した。研修責任者で副看護長の松林輝代子さんは、「看護技術の見直しにも

なり、役立ちます。毎年、新人看護職員研修で実施するには、新人看護師を指導・教育する側がきちんと手順をふまえていることが大切です」と話す。

T-PAS研修は、厚生労働省の「新人看護職員研修ガイドライン」の“実地指導者と教育担当者の育成”にも有効な内容であるため、今回は、まず、各病棟代表の実地指導者と教育の担当を担う主任向けに実施した。

素材の特性を知り、事故を防ぐ

T-PAS研修では、実際のインシデント事例を取り上げ、破損物品の写真とともに危険因子を検証していく。今回は、シユアプラグの混注口の液漏れ、チューブ破断、チューブ傷が取り上げられた。

「チューブには、PVC(ポリ塩化ビニール)とPVCフリーのものがあります。PVCは古くから耐久性および安全性に富んでいると考えられ医療現場で使用されていましたが、焼却するとダイオキシンが発生する場合があります。透明性や柔軟性保持のために用いる可塑剤の毒性が動物実験で確認されました。また、薬剤吸着等の問題もあることから、最近では生体にもやさしいPVCフリー素材が使用されています」

このような詳しい製品情報が得られる

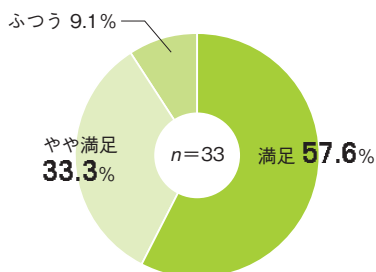


図1 研修会の満足度

- ・実際に体験できてわかりやすかった(卒後10年目以上)
- ・実践してみて、改めてやってはいけないことを実感できた(卒後4～9年目)
- ・ルートの強度の違いや、チューブ破損の原因がわかった。ふだん行っているなかでやっしまいがちなこと(10年目以上)

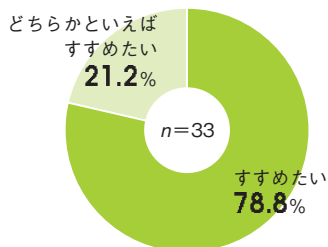


図2 実施内容を他の人にすすめたいか

- ・実際に起こりうる事例があり、伝達が必要(卒後20年目以上)
- ・製品の特性を知ることによって、より注意して取り扱う意識づけになる(卒後10年目以上)
- ・日常業務で常に使用しているものの、適切な使用方法を見直す機会になる(卒後20年目以上)

※T-PAS=2009年4月から医療機関向けに実施しており、すでに全国約240施設で行われている。T-PAS研修については、テルモ株式会社へお問い合わせください



「看護職は勉強好き。でも、そこで終わってしまっただけでは研修会の意味がないので、フィードバックの方法も他の病棟を交えてグループワークで検討するとよりよい案が共有できます」と研修責任者で副看護長の松林さん



「とくに破断や傷がどんな事故をもたらすのか、想像できない人に伝えることが大切」と外科病棟の西村さん



「私たちが講師で研修を行うと質問に対してすぐに答えられないことがあります。メーカーの方が講師だとすぐに明確な回答が得られてよいですね。ふだん疑問に思うことも存分に質問し、その場で解決できるので臨床で迷わずに済みます」と救命救急センターの植島さん

のもメーカーならではの、参加者も、「スタッフから質問されたとき、あいまいなことは答えられないので、詳しい情報が聞けてよかった」と感想を話していた。

また、製品の物性、構造、原理などに関する話とともに、「たとえばチューブ破断の事例であれば、車椅子やベッドの柵に引っかかったまま、急激に引っ張られたら切れてしまう強度です」という具体的な説明を聞き、参加者は現場での危険性をより認識できたようである。

効果的な現場へのフィードバック方法話し合う

T-PAS研修の大きなメリットは、実践することで素材の強度などを身をもって理解できることである。しかし、ここで実地指導者が体験し納得したことを、現場の看護師全員に体験してもらうわけにはいかない。そこで研修後のワークショップでは、効果的な伝達法について検討

された。

「チーム会や勉強会で実際に実技を見せられるとよい」「病棟はほぼニードルレスのシユアプラグで統一されているが、NICUには特殊な針を使う輸液セットもあるため、情報共有が必要」などの意見があがった。

また、「疲れたときに無理に集まっても、意識に残りません。有効な時間や場所を設定することも必要です。併せて人数やメンバー選択も吟味し、看護長や主任、安全委員などを巻き込んで、相談しながら実施するのがよいと思います。それから、あいまいな返事をしないことも大切。伝達内容にズレが生じ、問題が発生するおそれがあるからです」と看護技術推進委員会からのアドバイスもあった。

同院では、こうした体験型の研修は頻繁に行われている。救命救急センターの植島しづぶさんは、「病棟の看護師は60人くらいいるので、一度に勉強会は行えません。そこで、チーム会を利用して情報



を共有したり、実際に経験してもらっています」と話す。

外科病棟の西村恭子さんも、「実際、やっつけはいけないことを、知らないためにやっていることがあります。とくに、経験の浅い新人看護師は原理さえわかっていないことがあるので、そういう方たちに絞って伝えようと思っています」と話す。

体験型研修で得られた新たな気づきは、新人看護師教育の方向性も示唆しているようだ。

医療安全対策室から



医療機器は品種の統一と、わかりやすい使用説明が必須です

医療安全対策室室長 血液内科准教授
辰巳 陽一 医師

医療事故防止のための研修は、解決策の話をするだけでは効果がないので、身をもって体験することはよいことだと思います。

シユアプラグなどの汎用医療機器に関して注意しなければいけないのは、病棟ごとの違いがあるということです。事故防止のためにも、医療機器の統一は課題ですね。また、現在使われていないもの

などが在庫を整理して管理することも必要だと思っています。

一方、次々に新たな製品が導入され、使用法が理解しづらいという問題もあります。ME室では現場の要請に応じて、逐次研修を実施するなど柔軟な対応をしています。リスクマネージャー会議でも、手順をビジュアル化して説明するなどして気をつけています。



技術指導をする者の知識拡充のため、研修対象を変更しました

医療安全管理専任者 看護長
西隈 菜穂子さん

昨年、看護安全対策委員会がT-PAS「予測・予防型の安全対策」体験研修を実施し「実践に役立つ」と、良い評価を得ました。そこで、今年は「新人看護職員研修ガイドライン」に則って新規採用者の研修責任者を設けたこともあり、ガイドラインの内容を効果的に習得することが可能なT-PAS研修の対象を、看護安全対策委員でなく、実際に新規採用者の指導にあたる看護師に行うことになりました。